

# 鎌倉学園中学校・高等学校リニューアル

Kamakuragaku Junior and Senior High School

No. 05-055-2018作成

改修・保存  
学校

|       |               |              |             |                            |              |            |
|-------|---------------|--------------|-------------|----------------------------|--------------|------------|
| 発注者   | 学校法人 鎌倉学園     | カテゴリー        | A. 環境配慮デザイン | B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 | C. 各種制度活用    | D. 評価技術/FB |
| 設計・監理 | KAJIMA DESIGN | E. リニューアル    | F. 長寿命化     | G. 建物基本性能確保                | H. 生産・施工との連携 |            |
| 施工    | 鹿島建設          | I. 周辺・地域への配慮 | J. 生物多様性    | K. その他                     |              |            |

## 次世代に繋ぐ学び舎へのリニューアル



既存校舎の面影を遺しながら一新したファサード



改修前の既存校舎



隣接する建長寺山門

### 建て替えかリニューアルかの選択

鎌倉学園は、鎌倉五山の第一刹建長寺が、1885年に宗派の子弟教育のため設立した「宗学林」を起源とし、1921年学校法人の認可を受け開学をした。本計画は、鎌倉学園が2021年に迎える100周年記念事業として校舎を一新する計画としてスタートした。計画当初は、建替えて新築も視野に入れていたが、建長寺境内を含め、学園の敷地が史跡指定区にあたりことや現行の鎌倉市条例等の法規制下で、既存校舎と同等規模以上を確保した再建が難しいことが判明した。そうした課題を検討していく中で、新築からリニューアルを選択するに至った。



改修前 改修後  
下駄箱スペースをマルチスペースに転換

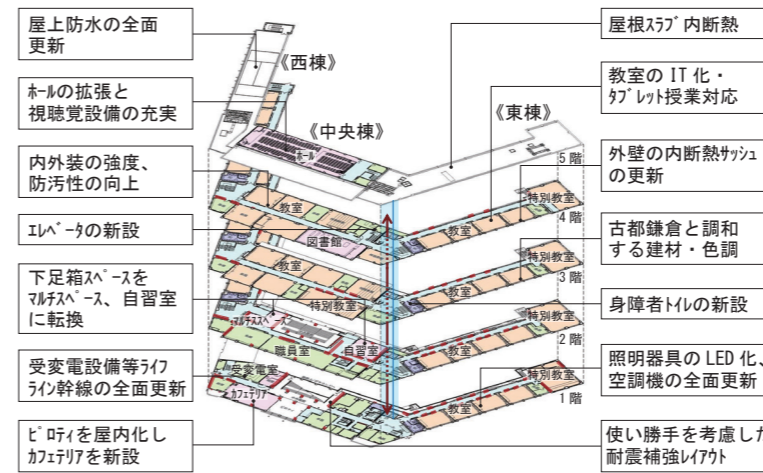
### 内外装の一新に留まらないリニューアル

リニューアルに際しては、内外装および設備の一新を全面的に行うと共にカフェテリア、マルチスペース、自習室など既存校舎に存在しなかった施設の新設、震災時の安全性を確保する耐震補強、次世代の教育環境を見据えたICT対応など継続して使用することのできる学校施設とした。

限られた既存校舎の規模の中から如何に新たな施設のためのスペースを生み出すかが課題であった。校舎内に点在して設けられていた倉庫などの要否とそれらの統合・集約・移設や屋外であったピロティ形式の駐車場やエントランスの屋内化、上足・



改修前 改修後  
ピロティの屋内化でカフェテリアを新設



### 主なリニューアル項目

下足の履き替えをやめて一足制とすることで下駄箱スペースを転換するなど一つ一つ丁寧に学園と議論を重ねることでスペースを捻出した。築50年を超える既存校舎は、新耐震設計基準以前の建築のため、震災時の安心と安全性を高める耐震補強工事も併せて行いIs値 $\geq 0.7$ を確保した。レイアウトの再編では、耐震補強が必要となる耐震壁や柱補強などの耐震要素と平面計画を幾度となく重ね合わせ、耐震要素が造作家具のロッカーやカウンター、棚、掲示板などで隠蔽されるように調整して補強が意識されない処理で新築感を醸し出している。

### 次世代に繋げるリニューアル

各教室には、モバイル端末を用いた学習に対応できるWi-Fi環境や電子黒板を標準設置した。また教室内の掲示板は、将来デジタルサイネージを導入することのできるネットワークの構築など、次世代に向けた学習指導の多様化と拡張性に対応できるようにしている。外装は吹付塗装から、耐候性に優れメンテナンス性が向上する黒燻瓦を想起させるせつ器質タイルと濃色のフッ素樹脂脂き付け塗装のアルミスパンドレルに置き替えて、古都鎌倉との調和を図った。内装も教室の壁面全面を木目調の温かい表情のメラミン化粧板で施工することで衝撃に対する強度と傷や汚れの付きにくさを確保し、長期使用を見据えた仕様とした。

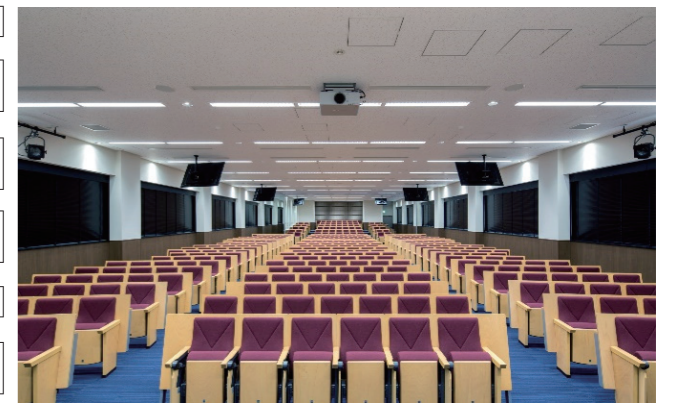
建築設備は、内装の一新に伴う電灯(LED化)・コンセント、空調機器などの器具の更新に留まらず、受変電設備や幹線、受水槽・給排水配管などのライフラインの更新も行い、今後使い続ける上での設備の信頼性の向上と建物の長寿化に配慮をした。さらに、躯体には断熱材を新規に施工することやサッシュ更新による気密性の確保により、熱負荷を抑え省エネの効果を向上させている。建物の機能と性能、デザインを総合的に一新した今回のリニューアルで鎌倉学園は、次世代に繋げる学校施設として生まれ変わった。

### 設計担当者

統括：山下悟志/建築：枝川和功/構造：角田光正/設備：松島秀孝、中川桂、杉崎聡  
設計協力：篠田秀樹、丸野道明、福吉ひとみ

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性(耐震補強: Is値 $\geq 0.7$ 、変電設備・幹線・配線・配管の設備更新による信頼性の向上)
- Q2. 3. 対応性・更新性(設備ルートの集約、耐候性の高い外装・高強度の内装の採用によるメンテナンス性の向上)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(古都鎌倉にふさわしい素材・色調・デザインの採用)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制(外装への断熱材新設・サッシュ更新による気密性の向上【CEC/AC=0.96、CEC/V=0.50】)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(空調・照明の中央制御・LED照明と人感センサーによる制御【CEC/L=0.44】)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減(既存躯体の継続使用、型枠木材の使用量削減、大型重機の使用抑制)



タブレットで視聴覚設備を制御できる星月ホール



Wi-Fi環境、電子黒板を標準装備した普通教室



温かな食事が提供され賑わうカフェテリア



デジタルサイネージで学校行事を知らせるエントランス

### 建物データ

|      |                      |
|------|----------------------|
| 所在地  | 神奈川県鎌倉市              |
| 竣工年  | 2017年                |
| 敷地面積 | 15,517m <sup>2</sup> |
| 延床面積 | 13,008m <sup>2</sup> |
| 構造   | RC造                  |
| 階数   | 地下1階、地上5階            |